

# 平成二十七年 度 国 語 問 題

【一】 次の各文の傍線部の漢字として正しいものを一つ選び記号で答えなさい。

- ① 子どもにはジュウ剤は飲みにくい。 (ア・情 イ・譲 ウ・錠 エ・冗)
- ② 新しく手チヨウを買う。 (ア・長 イ・聴 ウ・張 エ・帳)
- ③ 会議で決議案が採タクされた。 (ア・択 イ・拓 ウ・沢 エ・卓)
- ④ 硬貨をイる技術は古くからあった。 (ア・居 イ・射 ウ・鑄 エ・要)
- ⑤ 船から荷物を陸にアげる。 (ア・拳 イ・揚 ウ・上 エ・陽)

【二】 次の各四字熟語の空欄にあてはまるものを一つ選び記号で答えなさい。

- ① 死回生 (ア・気 イ・起 ウ・期 エ・来)
- ② 心暗鬼 (ア・義 イ・儀 ウ・偽 エ・疑)
- ③ 明鏡止 (ア・水 イ・粹 ウ・推 エ・垂)
- ④ 馬耳風 (ア・当 イ・投 ウ・冬 エ・東)
- ⑤ 一日秋 (ア・十 イ・百 ウ・千 エ・万)

【三】 次の①～⑤の対義語を後の語群の中からそれぞれ一つずつ選び記号で答えなさい。

- ① 諮問
- ② 虚像
- ③ 概略
- ④ 任意
- ⑤ 協力

語群	ア・妨害	イ・詳細	ウ・強制	エ・答申	オ・実像
----	------	------	------	------	------

【四】 次の①～⑤の意味を持つ言葉を後ろの語群の中からそれぞれ一つずつ選び記号で答えなさい。

- ① ほんのわずかしかないこと。
- ② 困難なことや悪いことがあった後などに、その試練に耐えて、その前よりもよい状態になること。
- ③ 手がたえがないこと。
- ④ 物事が絶えず移り変わるようす。
- ⑤ 人に親切にしておけば、必ず回り回って自分にもよい報いがあるということ。

語群	ア・ぬかに釘	イ・情けは人のためならず	ウ・雨降って地固まる	エ・雀の涙	オ・猫の目
----	--------	--------------	------------	-------	-------

【五】 次の傍線部と同じ意味用法のものを一つ選び記号で答えなさい。

- ① 父が部屋に入っている。

ア・何が何でも成功させたい。

イ・はつきり言うのもなんですが、

ウ・君が好きだ。

エ・私が先に行く。

- ② その子どもはビーマンが食べられる。

ア・故郷にいる両親のことが思われる。

イ・台風で家の屋根が飛ばされた。

ウ・そんな低い垣根なんか、子どもにでも越えられる。

エ・この本はたくさんの人に読まれている。

- ③ 火事で家を焼いてしまった。  
 ア・航空便だと一週間で着きます。  
 イ・雨で川の水が増水した。  
 ウ・学校で勉強する。  
 エ・日本人は箸でものを食べる。  
 彼は社長でありまた政治家である。
- ④ ア・これはまたどういことですか。  
 イ・あなたとまたお会いいたしましょう。  
 ウ・電車でも行けるし、またバスでも行けます。  
 エ・私もまたテニスを習っています。  
 ⑤ 今年は京都の桜は例年より早そうだ。  
 ア・そうだ、京都へ行こう。  
 イ・彼は桜のころ京都へ行くそうだ。  
 ウ・平安神宮もそうだが、京都はしだけ桜が多い。  
 エ・京都へ行こうかと誘われたら、彼も行きそうだ。

【六】 次の各外来語の意味を一つ選び記号で答えなさい。

- ① コミュニティー (ア・伝達) イ・個性 ウ・共同体 エ・慣習
- ② シチュエーション (ア・幻想) イ・状祝・場面 ウ・変化 エ・理想
- ③ シミュレーション (ア・模擬実験) イ・手引き ウ・現実主義 エ・直観
- ④ フィクション (ア・構築) イ・構造 ウ・空虚 エ・虚構
- ⑤ バリエーション (ア・変化) イ・差異 ウ・典型 エ・例示

【七】 次の文学史に関する各問の答えとして正しいものを一つ選び記号で答えなさい。

- ① 現存する日本最古の歌集は次のうちどれか。  
 ア・古事記 イ・万葉集 ウ・日本書紀 エ・古今和歌集
- ② 物語の最初の作品とされているものは次のうちどれか。  
 ア・竹取物語 イ・源氏物語 ウ・大和物語 エ・落窪物語
- ③ 紀貫之が女性の立場で書いた日記は次のうちどれか。  
 ア・蜻蛉日記 イ・更級日記 ウ・十六夜日記 エ・土佐日記
- ④ 作者が中宮彰子に仕えたときの日記は次のうちどれか。  
 ア・和泉式部日記 イ・讃岐典侍日記 ウ・紫式部日記 エ・とはすがたり
- ⑤ 『徒然草』の作者は次のうちどれか。  
 ア・清少納言 イ・鴨長明 ウ・吉田兼好 エ・菅原道真

【八】次のⅠ～Ⅲの文章を読み、後の問に答えなさい。

I

ある新聞記者から、「松下電器の成功の秘訣はどういうところにあるのか」と問われて、幸之助は、その記者に「雨が降ればあんたはどうしますか」と問い返した。そして「私なら傘をさします」という記者に、「①そう、それが秘訣ですよ」と答えている。

すなわち、雨が降ればだれでも傘をさす。そうすれば濡れないですむ。それが天地自然の理に順応した姿である。経営もまた、雨が降れば傘をさすように、当たり前のことを当たり前にやることに尽きる。百円で仕入れたものは百十円で売る。商品売れば代金をいただく。そういうきわめて当たり前のことを着実にやりとげていくならば、経営はもともとうまくいくようになっていく、というのである。

雨が降れば傘をさすことは、だれもが知っているし、やっている。(A)、商売や経営のこととなると、これがなかなか当たり前にはいなくなる。私心にとらわれて判断を誤り、傘もささずに歩き出すようなことをついついしてしまう。

たとえば、激しい競争に負けまいとして、原価以下に値引きしたり、相手先からいわれるままに代金の回収を延ばしておきながら、一方でほかから新たに資金を借りようとする。それではうまくいくはずがない。やはり利益をあげるためには仕入値以上の価格で売る。また借金をする前に、まず集金に全力を注ぐのがほんとうで、それでもなお資金が要るときに、初めてほかから借りるべきである。

それが雨が降れば傘をさす姿、(A)に従った姿であり、その当たり前のことを適時適切に実行するというところにこそ、商売、経営の秘訣がある、というのである。

II

幸之助は、みずからが考える企業の社会的責任は、大別するとつぎの三つになると述べていた。

一・企業の本来の事業を通じて、社会生活の向上、人々の幸せに貢献していくこと。

二・その事業活動から適正な利益を生み出し、②それをいろいろなかたちで国家社会に還元していくこと。

三・そうした企業の活動の過程が、社会と調和したものでなくてはならないこと。

それぞれの項目を要約して説明すると、以下のようになる。

第一の「③その事業を通じて社会に貢献する」ということは、企業の基本的使命である。これは、製造会社であれば、優れた製品を開発し、適正な価格で、必要な量を生産(イ)していくことであり、流通業であれば、十分なサービスをしつつ、製品を円滑に(ウ)者に提供していくことである。そうした本業を通じての社会への貢献が、企業の基本の使命であり、この点に欠けるものがあれば、他の面でいかにすぐれていても、その企業は真に社会的責任を果たしていることにはならない。

第二の「適正利益の確保」は、企業がその基本の使命を十分に果たしていくためにも、また社会に別の意味でプラスしていくうえでも必要不可欠である。そのことは、企業の利益がどのように使われているかを見れば、一目瞭然であろう。

(B)、利益の約半分は税金として、国家や自治体に納められ、残りの二〇～三〇パーセントは、株主への配当になる。その配当に対しても税金がかかるから、企業の利益の六〇～七〇パーセントは、税金として納められ、国民全体に還元される。もしすべての企業が利益をあげなかったら、国や自治体は、そのぶん税金が入らず、国民のための施策ができなくなってしまう。

したがって、企業が適正な利益をあげ、税金のかたちで国家社会に還元することは、国民の福祉向上に欠かすことができないものであり、そのこと自体が一つの大きな社会的責任だと考えられる。

第三の「社会との調和」は、企業がその活動を展開していくうえで関わりをもっている国家、地域社会、業界、仕入先、販売先、諸外国などとの調和を保ちつつ、企業活動を行なっていくこともまた企業の社会的責任であるということである。

(B)、企業が社会的使命を果たす過程において社会に迷惑をかけるようなこと、たとえば公害を出すようなことがあれば、当然その社会的責任が問われることになる。

III

世間は広く、人生は長い。それだけに困難なこと、苦しいこと、つらいことがいろいろある。④そんなときに、どう考え、どう処理するか。幸之助は、その際の考え方、処理の仕方によって、その人の幸不幸、飛躍か後退かが決まると言い、見方を変え、考え方を変えることの大切さを説いている。

困難に遭遇したとき、「どうしよう、どうもできない」と注1 逡巡<sup>しゅんじゆん</sup>しては、せつかく出る知恵も出なくなる。今まで楽々と考えていたことでも、なかなか思いつかなくなる。そして原因や責任を他に転嫁して、不満がつのり、とどのつまりは不満でわが身を傷つけてしまう。

そこで見方を変え、考え方を変えてみる。今、困っただけ思っているけれど、これが案外、新しい発展の転機かもしれない。そう見方を変えれば、新しい道も見えてくる。実際、お互いがあまり苦心をしないで、⑤うまく坦々<sup>たんたん</sup>と行けるときには、新しい創造はなかなか生まれない。生まれても、すぐれたものが生まれない。これは人間の常として、やはり易きにつき、注2 安逸<sup>あんい</sup>に流れるからである。しかし、ひとたび⑥大事に直面すると、今までなかった知恵も出て、新たな働きも生まれてくるのである。

だから、(エ)。困難を困難とせず、思いを新たに決意堅く歩めば、困難がかえって飛躍の土台石となる、というのである。

【出典「松下幸之助の見方・考え方」PHP研究所】

注1……ためらうこと。 注2……のんびりと楽しむこと。

問一 傍線部①「そう、それが秘訣ですよ」について、何が秘訣なのか、説明した文で最適なものを、次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

ア・雨が降れば傘をさすという答えを導くように、個人のもっている長所を引き出すことが経営には大切だということ。  
こと。

イ・雨が降れば傘をさすように、当たり前のことを意識せずに行うことが商売の基本だということ。

ウ・雨が降れば傘をさすように、当然のことを確実に実行することが経営には大切だということ。

エ・雨が降れば傘をさすという答えを導くように、当たり前のことを教えていくことが商売の基本だということ。

問二 (A) (B) に入れるのに最適な語句の組み合わせを、次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

ア・(A) ところが (B) つまり イ・(A) つまり (B) そして

ウ・(A) しかし (B) たとえば エ・(A) そして (B) しかし

問三 (ア) に入れるのに最適なものを、次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

ア・代金の回収 イ・当たり前のこと ウ・私心にとらわれた判断 エ・天地自然の理

問四 傍線部②「それをいろいろなかたちで国家に還元していくこと」について説明した文で最適なものを、次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

ア・企業が儲けた利潤を社会に意図的に投下していくことで、社会全体の景気をあげ、更なるもうけを生み出すと  
いうこと。

イ・企業が余ったお金を内部に貯め込んでおくことで危機的状況にも対処でき、結果的に国家を救うことになると  
いうこと。

ウ・企業があげた適正な利益を税金として収めていくことが、国民の福祉を向上させることにつながるということ。

エ・企業が地域やその活動が影響を及ぼす場所と調和を図ることで、商売や経営もやりやすくなっていくということ  
と。

問五 傍線部③「その事業を通じて社会に貢献する」について説明した文で最適なものを、次のア～エの中から一つ選び  
記号で答えなさい。

ア・その会社が本業を通して社会に貢献することが社会的な責任を果たすことにつながるということ。

イ・その会社が多様な長所を、惜しみなく社会に還元していくことが大切だということ。

ウ・その会社が副業においても社会で必要とされることが、社会的な使命を果たすということ。

エ・その会社にとって利益となるような部門を積極的に推し進めることが、社会にとって有益になるということ。

問六 (イ) (ウ) に入れるのに最適な語句の組み合わせを、次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

ア・(イ) 需要	(ウ) 供給	イ・(イ) 供給	(ウ) 需要
ウ・(イ) 供給	(ウ) 供給	エ・(イ) 需要	(ウ) 需要

問七 傍線部④「そんなときに、どう考え、どう処理するか」について説明した文で最適なものを、次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

一つ選び記号で答えなさい。

ア・なぜこのようになったのかを分析し、一度全ての不満を吐き出させることによって、新たな解決策を模索する。

イ・見方や考え方を変え、今まで考えも及ばなかったことに思いをはせ、成長の一步となるように夢想する。

ウ・なぜこのようになったのかを分析し、原因や責任を深く追及することによって打開策を見いだす。

エ・見方や考え方を変え、新たな発展のきっかけだと考えて、苦心しながらも自らの飛躍とする。

問八 傍線部⑤「うまく坦々と行けるとときには、新しい創造はなかなか生まれない。生まれても、すぐれたものが生まれない」のはなぜか、理由を述べた文で最適なものを、次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

ア・平和であればあるほど、人間は安易な発想や道を外れることをしやすいから。

イ・人間は簡単なことや不平不満を述べ責任を逃れる方向に進みやすいから。

ウ・人間は容易なことや心のおもむくままに気楽に過ごす方向へと流されやすいから。

エ・平和であればあるほど、人間はたやすく自分を変えながら人の意見に左右されがちになるから。

問九 傍線部⑥「大事」と同じ意味となる単語を、次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

ア・困難	イ・処理	ウ・遭遇	エ・転嫁
------	------	------	------

問十 (エ) に入れるのに最適なものを、次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

ア・何があっても楽観的であること	イ・困っても楽々と考えること
ウ・何があっても相談すること	エ・困っても困らないこと